

## 令和5年度幼稚園学校評価（朝山幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価		評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○「幼稚園では、園の特色や実態を生かした教育活動が行われている」と思う保護者は、そう思う、だいたいそう思うの回答が100%であり、幼稚園の教育活動が円滑に行われていると評価を得ている。 ○園の経営方針を踏まえた学級目標を作成し、学期ごとに学級経営を反省、評価し、改善策を考えて実行することができた。月の目標を幼児の実態を捉え見直し、修正をはかることができた。	4	4	○今後も定期的に評価、改善をおこない、教育目標の達成に向かって学級経営を充実していく。 ○地域の環境や人的環境を生かしていけるように教師の教材研究に努める。	
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の様子から課題を捉えて保育を行っているか。	○「教職員は、一人一人の子どものをよく理解し、子どもの意欲や自信を引き出すように心がけている」と思う保護者は、そう思う、だいたいそう思うの回答が100%であり、教職員は一人一人の幼児の発達を捉えて保育していると評価を得ている。 ○定期的な記録日などを通し、全職員で幼児の姿を分析し、多面的に捉えて援助を採るように努めた。	3	4	○日常の様子や記録日などを通して、一人一人の幼児の発達や育ちを担任だけでなく全職員で捉え、よりよい援助や保育の在り方を探っているように努める。	
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○関係機関との連携をとりながら情報の共有や、支援の在り方などについて見直すことができた。特に、市保健師との連携は、園児の置かれている環境を理解し、園でできることを探りながら援助につなげることができた。 ○保護者対応については、個人面談での担任対応や、必要に応じて特別支援コーディネーターが間に入り対応するように努めた。	4	4	○子どもの発達の読み取りをより具体的に探り、その支援について考え、発達違う課題に添った援助ができるようにしていきたい。 ○関係機関との連携については、コーディネーターが調整役となりながら、保護者と担任がより良い信頼関係ができるように努めていきたい。	
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○幼稚園の生活全てが、人権・同和教育であることを認識し、保育を行っている。 ○毎日の保育で、遊びの振り返りや話し合いを通して、互いを認め合えるような場をすること、いろいろな考えがあることを認め、尊重されることを大事にするよう努めた。	3	3	○令和6年、7年度の出雲市同和教育研究指定事業を機会に、職員研修、PTA研修をするなど、人権感覚を高めていけるような取り組みをしていきたい。 ○日常の場面や生活を大事に捉え、一人一人を事にした保育を行うように努めていく。	
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○「幼稚園では、行事や活動が工夫されている」と思う保護者が、そう思う、だいたいそう思うの100%であり、園での行事の取り組みや工夫がされていると評価を得ている。 ○保育活動、体験活動を基盤に日々の保育とつなげていくことで、遊びが深まっていくよう保育の構想や構成、援助に努めた。保育公開日等で、その様子を保護者に見てもらふことで、子どもの育ちを確かめ合う事ができた。	4	4	○今年度、地域活動や様々な人との関わりを保育や日常の生活につなげて活動した成果を踏まえ、来年度も継続していきたい。 ○今年度の取り組みの成果と課題を踏まえ、実施内容を検討していきたい。	
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○みなみ小学校との合同行事や縦割り班活動を通して、互恵性のある取組ができた。小学生と触れ合う中で、小学生の姿から憧れや、真似て自分たちもしてみたいなど、活動が園生活でも行われる場面もあった。また、星休みの交流は、関わりをもった学年が幼稚園を訪れ日常的に触れ合う様子が多く見られた。 ○職員同士が子どもの様子を語り、必要に応じて情報共有をする機会もあり連携が図れている。	4	4	○なかよし班活動や行事について、事前の連絡や取組内容の共通理解について、その方法や在り方を工夫していきたい。 ○行事だけではなく、日常の関わりを園児、児童、職員ができるように努めたい。 ○園内研究に小学校の職員にも参加してもらったり、就学前の情報共有についての機会をもって、幼児理解、保育への理解を図れるように工夫したい。	
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○予定していた保育公開日、行事等をほぼ行うことができ、園生活の様子や、園児の育ちを見てもらふことができた。 ○地域の方々との交流活動を見直し、活動を重ねたり、保育活動に生かしたり、園に招くなど関りを深め、親しみの気持ちや感謝の気持ちを表す活動につなげることで、園児の心情面での育ちを感じることができた。 ○未就園児教室「さくらんぼ教室」では、地域外の参加が2組あったり、幼稚園に触れさせたい保護者のニーズに応え、内容を工夫したりして実施した。	3	4	○保育公開日や行事だけでなく、日々の送り迎えや連絡ノート、お知らせボードなど日々の関わりを継続して大事にしていき、連携をとってきたい。 ○未就園児教室や地域の諸団体との関わりなどを通して幼稚園教育の理解を進めていきたい。そのために、コミュニティーセンターとの連携を密にして地域の幼稚園としての役割を果たしていきたい。 ○未就園児教室については、「開放日」として園に来て遊んだり保護者同士の交流ができるような場をつくり、子育て支援の役割を果たせるようにしたい。	
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○全クラスが保育を公開し、研究の視点に沿って保育を見合い園児の発達や思いの読み取りを語り合い、必要な援助について探ってきた。 ○幼児教育指導員を招き、園の研究、教師の援助について指導を仰ぎ、保育を振り返り今後のよりよい援助について追及することができた。	3	4	○園内研究や記録日などを通して、全職員が幼児理解や保育について語り合いの資質を高めたい。 ○個人で参加した研修会や研究会、指導を受けたことなどの伝達する機会や方法などを工夫し、学びや共通理解に努めていきたい。	
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○年度当初から職員の配置が少ない状況の中で、互いを補い合いながら業務に当たることができた。 ○園務内容、分掌内容を長期、短期と計画を立て、計画的に遂行できるようにした。	3	3	○職員数が少ない中で、効率的に業務を進めていくために計画的にすすめ、状況を共有しながら協力して進めていくようにしたい。	
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○今年度は、新しく「引き渡し訓練」を小学校と同日に行った。保護者からも、訓練の必要性を求める声が多数聞かれた。 ○日頃から、不審者対応について職員同士連携をとり、施設、来客の確認、園児の確認を怠らないように努めている。	4	4	○今年度実施した引渡し訓練を継続して行い、有事に備えて保護者と連携して幼児の安全や管理体制を構築できるようにする。 ○いろいろな状況を想定して避難訓練を行い、適切な対応ができるようにする。	
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○定期的に安全点検を行い、園舎内外の安全管理に努めた。 ○危険箇所、修繕の必要な箇所があれば速やかに、業者または教育施設課に連絡し改善を行っている。 ○施設や遊具については、教育政策課からの点検が行われている。	4	4	○安全点検を継続し、園舎内外の施設設備の点検に努める。修繕、修繕が必要になった場合は速やかに処理する。 ○園庭の整備については、保護者(MOP)の協力を得ながら環境整備に努める。	

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する